

120年の歴史を刻む鹿島高校

本校は、明治29年(1896年)、鹿島藩第13代藩主鍋島直彬公による「鎔造館」の建物・備品一式の県への寄付、並びに敷地の無償貸与によって、

「佐賀中学校鹿島分校」として誕生しました。卒業生は既に26,000名を超え、各界で活躍する人材を輩出する県西部地区屈指の普通科進学校です。

旧鹿島城の本丸跡の閑静で緑豊かな敷地に建てられていますが、その城門であった赤門は、本校の正門として、またシンボルとして、鹿城生(在校生・卒業生)の大きな心の支えとなっています。



学校所在地： 鹿島市大字高津原462

生徒数： 586 名

連絡先： TEL 0954-62-4136 FAX 0954-63-9006

URL： <http://cms.saga-ed.jp/hp/kashimakoukou/>

地元大学・地元企業の研究

進路学習として職業研究や学部学科研究を行っています。「佐賀大学ジョイントセミナー」では大学での具体的な研究について、「先輩に学ぶ」講演会では、地元就職した卒業生から、職業の中身についてより深く学ぶ取り組みを行っています。



開校記念遠足

毎年4月の開校記念日には祐徳稲荷神社や和泉式部公園への遠足を行っています。



伝統を受け継ぐ「牡丹餅会」



牡丹餅会とは、鍋島直彬公が旧制中学の教員や生徒を自邸に招き、御馳走を振る舞い健闘を祈られたことが始まりとされてます。現在では鹿島高校と鹿島実業高校の3年生と一緒に参加し、100年以上続く行事となっています。

卒業間近の3年生が「牡丹餅を食べ、将来を語り牡丹餅のように丸く粘り強くなろう。」とお互いの健闘を誓い合います。また、両校代表生徒によるスピーチやピアノ演奏、それに毎年恒例の綱引きが行われ、会を盛り上げています。

鹿島の歴史を強く感じる事ができる大切な行事です。



クリーンアップ活動

日頃お世話になっている学校周辺をきれいにする活動に取り組んでいます。溝や植え込みなど細かなところにまで気を配り、感謝の気持ちを表します。



学校の誇れるものの紹介



鹿島高校正門:赤門
佐賀県重要文化財



新校舎が完成しました!!!

120年の歴史を刻む鹿島高校

本校は、明治29年(1896年)、鹿島藩第13代藩主鍋島直彬公による「鍛造館」の建物・備品一式の県への寄付、並びに敷地の無償貸与によって、

「佐賀中学校鹿島分校」として誕生しました。卒業生は既に26,000名を超え、各界で活躍する人材を輩出する県西部地区屈指の普通科進学校です。

旧鹿島城の本丸跡の閑静で緑豊かな敷地に建てられています。またシンボルとして、鹿城生(在校生・卒業生)の大きな心の支えとなっています。



高大連携・職業研究

総合的な学習の時間の中で、進路学習として、職業研究や学部学科研究を行っています。

①佐賀大学ジョイントセミナー

佐賀大学の各学部より先生方を招き、研究内容の説明、就職状況、入試状況の説明を講義形式で受講し、学部学科研究の手立ての一つとしています。

②先輩に学ぶ

様々な仕事の内容、社会人としての心構えや求められる資質、高校在学中に取り組むべきこと等について、より深く理解するために、社会の第一線で活躍されている本校の先輩を講師として招き、職業研究の手立ての一つとしています。



学校所在地： 鹿島市大字高津原462 生徒数： 588 名
連絡先： TEL 0954-62-4136 FAX 0954-63-9006
URL： <http://cms.saga-ed.jp/hp/kashimakoukou/>

伝統を受け継ぐ「牡丹餅会」

鍋島直彬公は旧制中学の教員や生徒を自邸に招き、御馳走を振る舞われ、健闘を祈られました。その後、この会は牡丹餅会とよばれ、鹿島高校と鹿島実業高校の最上級生が招かれて、毎年開催され、100回を超える伝統行事となっています。

この行事は、卒業間近の3年生が、「牡丹餅を食べ、将来を語り牡丹餅のように丸く粘り強くなる。」とお互いの健闘を誓い合い、両校代表による綱引きや、ピアノの演奏などの出し物、生徒代表のスピーチが行われ、会を盛り上げています。



開校記念遠足

毎年4月の開校記念日に祐徳稲荷神社や和泉式部公園への遠足を行っています。



学校の誇れるものの紹介



赤門 鹿島高校正門
佐賀県重要文化財



旧制中学時代に
建てられた講堂



旧制中学校の校訓碑